第１回文化施策に関する市民懇話会　議事録

〇日　時　令和６年６月６日（木）18:30～20:00
〇会　場　高岡市役所 801 会議室
〇出席者　【委員】荒井委員、有田委員、安藤委員、筏井委員、伊豆委員、中川委員、浜野委員、藤田委員、山本委員（五十音順）

１　開会
・角田市長あいさつ

２　座長の選出
・推薦により山本委員を座長に選出

３　協議
(1)「文化施策に関する市民懇話会の開催計画」及び「これまでの文化振興事業の取組み」について事務局から説明
(2) 各委員の取組みや認識している課題について各委員から報告

委員
３月に開催したひなフェスでは、多くの高校生に参加してもらった。こうしたイベントがないと、高校生が文化に触れる機会というのは非常に少ない。また、高岡に住んでいながら、高岡のことをあまり知らない高校生も多いため、解決するための取り組みとして市内のスポットを取材して、紹介するカードを作成し、道の駅などに設置した。
御車山祭りでは年々住民の高齢化、担い手不足が深刻化してきている。伝統を大事にしつつ、柔軟に考えていかないといけない。

委員
2014 年に高岡に赴任し、2016 年から地元の大学で市場街に関わることで単位が取れる仕組みを立ち上げた。今年の学生含めて、これまでに総計 150 名が市場街に参加した。最近では、市場街に参加したいから大学を受験したという学生が複数人出てきている。
市場街の課題としては、どのように世代交代をしていくかであったが、最近は若い世代が頑張って前に出てきており、課題は改善できている部分がある。2006 年に開学し、2009 年に初めて卒業生がでて、過去の卒業生がまちづくりに興味を持って参加してくれているという循環が生まれていることが、改善の背景にあると考えられる。
最近の課題は、そもそも市場街のスタートのきっかけであったクラフトコンペの盛り上げに至っていないことである。

委員
市場街は令和４年度に総理大臣表彰を受けたとのことだが、その波及効果はクラフトコンペには波及していないのか。

委員
クラフトコンペと市場街では実行委員会が別になるので、そのことから波及効果が及んでいないと思われる。
まちづくりイベントは全国各地で展開されているが、持続・継続という点がやはり課題である。市場街は 10 年継続しており評価された。

委員
一昨年から市場街にキャストとして関わっている。県外からボランティアとして参加されている方も多くいて、全国から市場街というイベントが広く認知されている実感はある。ただ、毎年継続的に市場街に参加してくれる方は少ない。私は今年で３年目になるが、同じように３年もしくはそれ以上参加している方は今年のキャスト 20 人程度のうち、３人しかいない。高岡や市場街に興味を持って継続的に参加してくれる人が全国的に増えれば、よりよいまちづくりにつながるのではないかと思う。

委員
継続的に参加する人が少ない原因というのはなにが考えられるのか？

委員
県外のボランティアは事前の準備は参加できず、当日のみの参加しかできない。もう少し深く関われる仕組みがあれば違うのかもしれない。

委員
市の芸術祭などに出演している。自身の団体で子どもたちに民謡等の文化を知ってもらうため、様々な分野の先生方と一緒に小学校等に、出前授業で訪問するなど、子どもたちが文化に触れられる機会の提供をずっとやってきた。
資料にある取組としては、ユニークベニューや高岡時空舞台に参加させていただいた。私たちだけでは、YouTube に動画を公開することは難しいので、非常にありがたい取組みだった。
私たちの課題は、どの分野でもそうだと思うが、高齢化である。かつては習い事の文化があり、お茶だったりお花だったり芸術だったり、子どもが何かしらの習い事をしていたが、いまでは、大人がやっていることが多い。

子どもたちも、学校と家だけではなく、もう 1 つやっていることがあると、すごく心が豊かになるのではないかと思う。
今日、アートとかクラフトの先生方がいらっしゃるが、違う分野のことを私はあまり知らないなと感じた。お互いにしっかりやっているが、例えば、芸術祭にクラフトのすてきな作品を飾るとか違う分野の連携を一緒にできたらと思う。

委員
この 2、3 年のコロナ禍で獅子舞や神輿などの直接肌が触れ合うような地域活動は減ってしまった。そういった点から、課題としては地域活動の復活がある。いま、市から支援金をいただいて地域活動の復活に取り組んでいる。例えば弥栄節。子どもの頃にやっていると大人になっても地域に興味をもって繋がりが増える。
最近は 30～40 代の世代の自治体活動への参加も減っている。声をかけても仕事やプライベートの予定で参加しにくい。その世代が地域活動に参加できていないのも課題だ。
子どもが参加できれば、その親の世代も参加してくれる。子どもは獅子舞等の地域の活動に興味を持ってくれる。地域においても高齢化というのが課題になっている。

委員
県外から移住した身として、高岡市は有形無形の文化が非常に豊富だと感じる。子どものすぐそばに文化がある。子どもが芸術文化に触れる機会というのは非常に多い。たとえば教育委員会が取り組んでいるものづくりデザイン科。子どもたちのアイデンティティを確立するための施策を高岡市は十分にやってくれていると思う。
ただ、子どもたちが、「今後も芸術文化とともに生きていくか」や、「高岡市をもっとよくしていこうと考えるか」は別の問題。どれだけ素晴らしい取組みやイベントが開催されていても、高岡市のまちづくりに高岡市民としての素晴らしさを感じないと、子どもたちは外へ出て行ってしまう。高岡市には多くの成熟した文化があるが、ブランディングの面でもったいない部分がある。

委員
生け花をやっている人は多くいるが、その中に若い人は非常に少ない。子ども教室を開催してもなかなか人が集まらない。平均年齢が極めて高くなっているので、青年部を活性化させようと力を入れてやっているが、高齢化によって青年部の対象年齢を高くしないと運営できなくなってしまっている。教える側が若ければ、習う側も若くなるのはわかっているが、若い方というのは勤めているので、時間もお金も場所もない。教えるとなれば花器なども必要になるが、その資本もないため、若手を育てるために上の年代が資本を提供して教室を開かせている。大学には若い人が必ず入ってくるが、私どもの場合はそういうのがない。そうするとだんだんと平均年齢が上がってくる。だから若い人に教室を開いてもらうが、なかな

か人が集まらない。花器を提供しても新聞で広告を出しても集まらない。それが一番問題だと感じている。
過去にデザインセンターで講師をしたときに銅器はこの先売れなくなるという話をした。その理由は、生けるものの種類が時代で変わっており、松などの“木”からカーネーションなどのような軽い“花”が中心になっているのに銅器は昔のままだから。最終的に“花”に合う形・色・質感を銅器から変えたものを私が自分で作った。伝統にしがみつかずに何か変わらないといけない部分もあるのかもしれない。

委員
伝統的なものの中には「不変の美」という考え方があり、400 年 500 年絶対変えちゃいけない、変えると別のものになるという先生方が高岡にいっぱいいらっしゃって、新しいものに取り組まないというのがある。そうすると若い人はこない。時代の流れの中で、不変が本当にいいのかどうかという問題もある。
銅器においても 400 年の歴史の中で培われた、そういう形式とか手法とかが、今の現代にマッチしているかどうかというと、時代が変わった中で受け入れられなくなっている部分もある。そこがネックになって、右肩下がりになる部分もある。
高岡が守ろうとしていることが強い武器でありながら、かえって仇になっているところも多い。本当にすばらしい伝統でありながら、逆に現代に追いついていないと言い方もできる。

委員
舞台芸術、特にダンスをメインに、踊ったり振り付けをしたりしている。皆さんの話を聞いていると、高岡ではいろいろなことが行われていると思うと同時に、なかなか自分自身が実際に足を運んでいなかったと感じる。
また、若い人が新しくやらないから高齢化が進んでいるというのがよくわかった。まずは若い人がやる機会を広げる。そして 1 回の体験から、それをどのようにして継続的なものにしていくのかが重要なのかなと思う。
世代的にターゲットは子どもにしているのが多いかと思うが、30～40 代くらいの世代が活躍する場所も必要かと思う。
高校生がカードを作った話を聞いていても、紹介する場があるからこそ、やりがいを持って取り組めたのかと思う。
違うジャンルの芸術のコラボレーションというお話もあった。 1 つの分野で違う世代の人の作品を並べてみるというのも面白い。
もう 1 点。高岡のクラフトに対して、外の人はすごく興味を持って、見に行こうとなるが、高岡市民はどうなのか。市内の人をどうやってそういう場に連れて来られるか。高岡市がこんなに素晴らしいんだということを市内の人に知ってもらう機会を持てたらいいと感じた。

委員
高岡が素晴らしいのは、たとえば 10 才のファーストコンサートは 30 年やっている。市役所のバックアップがあった上で、高岡の近くにオーケストラアンサンブル金沢というクオリティの高い素晴らしい芸術資源がある。それらをうまく活用しながらやっている。
今年から始めた 0 歳児のコンサートは申込を先日開始して、QR コードとファックスと窓口という 3 つの方法があるが、いまのところ 100%QR コードで申し込みがされている。それから、市のラインを使って広報すると、一気に知名度が上がる。今の若い方々の情報の享受は、すべてスマホからになっている。
コロナ前と今では、芸術文化のあり方・考え方が変わってきているので、今の機会で見直すとか振り返るのは、いいタイミングなのかなと思う。
先ほどあった芸術祭にクラフトを融合させて、同一会場で一緒に体験させるということだったり、芸術祭のロビーでは鋳物体験をやってみるなどもあってもいい。ブースがあって、高岡の文化だったり芸術を紹介していたり、QR コードを貼っておいて情報を流したりというのも考えられる。

委員
この懇話会のゴールをみなさんで共有したほうが、今後の懇話会を進めやすくなると思うがどうか。

事務局
意見を一つの提言書の形にまとめるということは想定していない。今回の懇話会は、今後の文化施策を考える上での基礎的なヒアリングの場と考えている。多様な立場の皆さまの多様なご意見を聞かせていただきたい。

委員
今回の議論の中で高齢化と後継者不足というのがいろんな分野で問題になっているとか、高岡は素晴らしい芸術文化があるのに PR 不足だとか。そういった問題点がみなさんから意見として聞けた。そういったところを次回以降議論できればなと思っている。
次回の懇話会は 8 月を予定している。